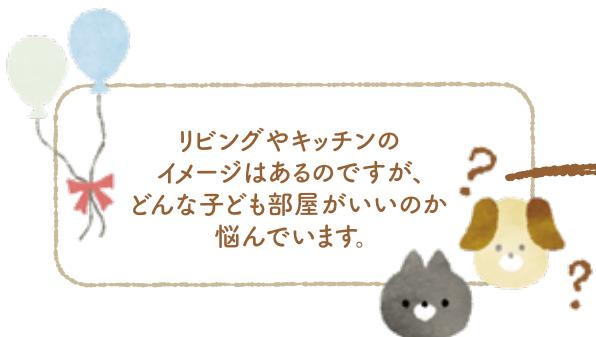




# 子ども部屋のインテリア＆レイアウト

住まいづくりで間取りを考えるとき、意外に迷うのが子ども部屋のインテリアとレイアウトです。最近の傾向は、子どもが小さいときはリビングやダイニングなど、目が届きやすいところに学習コーナーを設けるケースが多いようです。

しかし、いずれ自分の部屋を欲しがるようになった時のためにも、子どもたちの成長を考えた子ども部屋をあらかじめ作っておくことが必要です。



## それなら経験豊富なハウスメーカーにご相談を！

ご両親やお子様のご希望をお聞きし、理想の子ども部屋をご提案します。また、数々の実例もご紹介します!!



## ● どのくらいの広さが必要？

住宅事情にもよりますが、4.5～6畳の広さは必要でしょう。机を置き、本棚やベッドを入れれば4.5畳はギリギリ最低限の空間です。余裕があれば6畳の空間は確保してあげたいものです。成長に合わせて必要なモノも増えるため、クローゼットや物入なども必要です。

## ● “女の子”的子ども部屋

女の子のための子ども部屋はカラフルにしたいのですが、最近はシックで落ち着いたイメージのインテリアが増えています。また、特に気をつけたいのがプライバシーを考慮しておくことです。採光や通風を考えれば、大きな開口部を設ける事も大切ですが、外から丸見えの部屋は女の子には不向きです。

## ● “男の子”的子ども部屋

男の子は行動的な子が多いので、インテリアや家具は汚れにくく、壊れにくい配慮が大切です。また、空気の入れ替えや掃除がしやすいことも必要です。

## ● 最初は一部屋、後で間仕切り二部屋に

最初は大きな一部屋を兄弟や姉妹で使用し、成長すれば、間仕切って二部屋で使用することも可能です。小さい時は兄弟一緒に遊んだり、学んだり…。夜は二段ベッドで仲良く眠るという生活ができます。大きくなれば、二部屋に仕切ってお互いのプライバシーも尊重するという方法です。

ただし、家を設計する段階で考慮して、部屋を作つておく必要があります。構造的な問題もありますが、ドアや収納など二部屋になった時のことを想定して設計しておきましょう。

## ● ロフトを使った子ども部屋

屋根裏部屋を使った子ども部屋も人気です。男の子にとっては秘密基地、女の子には隠れ家のイメージの子ども部屋になります。最近は建築技術の向上で、屋根裏部屋にある程度の広さを確保することができるようになりました。

ただし、暑さ寒さや換気など、配慮しなければならない点も多いので気をつけましょう。

いずれにしても、“子どものための子ども部屋”です。

遊びと遊び、そして子どもの過ごしやすい環境が必要になってきます。

空間や家具をバランスよく配置し、のびのび育つためのより良い部屋を設けてあげましょう。

